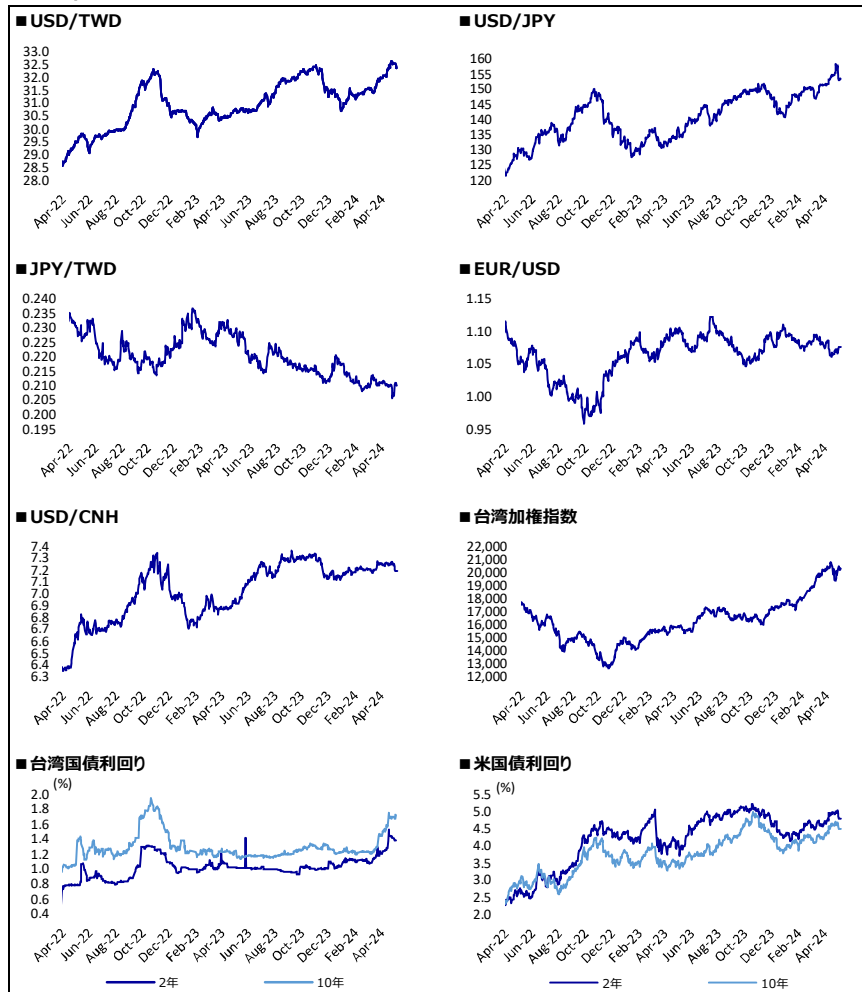


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初4/29は32.590でオープン後、前週末に発表された米3月PCEが堅調な結果となっていたことを受けて、ドル買いが優勢となり一時32.645まで上昇。その後、ドル円が急速に下落し、為替介入が入ったとの思惑が広がる中、ドル売りが優勢となり32.50台前半まで下落した。4/30は、外国人投資家による台湾株買いが見られた一方で、輸入業者による外貨買いが見られていたことを受けて売り買い交錯の展開となり、32.50台前半で揉み合いの推移。5/1は、台湾祝日で休場。5/2は、前日海外時間のFOMC以降、米金利が低下していたことを受けて、ドル売り圧力が強まった他、ドル円が急落していたことを受けてアジア通貨全般に上昇圧力がかかり、32.50を割り込み下落した。5/3は、FOMC以降の米金利の低下と、外国人投資家による台湾株買いフローが台湾ドルを支え、一時32.354まで下落した。最終的には前週比0.6%ドル安台湾ドル高の32.376で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は351.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初4/29は158.00でオープン後、日本祝日であり市場参加者も少ない中、前週末発表された米3月PCEが堅調な結果となったことや、日銀による金融政策据え置きを受けて円売りが優勢な展開となり、一時160.24まで上昇。1990年4月来の高値を更新した。しかしその後、急速に円が買い戻され155円近辺まで下落。為替介入の思惑が広がった。4/30は、翌日海外時間にFOMCを控える中、方向感に乏しく157円近辺で揉み合いの推移。5/1は、海外時間、FOMC会合においてパウエル議長より「物価と雇用市場のリスクはバランスしてきている」との発言が有ったことや、バランスシート縮小ペースの減速が決定されたことがハイト派と受け止められ、米金利が急速に低下。ドル売りが進み153円近辺まで下落した。5/2は、米金利の低下が続いていた他、米第1四半期労働生産性が市場予想を下回る結果で発表されたことを受け、153円台半ばで上値重く推移。5/3は、海外時間に発表された米4月雇用統計において、失業率、非農業部門雇用者数共に市場予想対比悪い結果となっていたことを受けて、米金利が急速に低下。ドル売りが加速し、一時151.86まで下落した。最終的には前週比3.4%ドル安円高の153.00で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.100-32.400
今週は上値の重い推移を見込む。FOMC以降の米金利の低下や、米雇用指標の軟化を受けて、ドルは売られやすいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：151.00-155.00
今週は上値の重い推移を見込む。米金利が急速に低下している他、為替介入への思惑が強まりやすい環境下、ドル売り圧力が強まりやすいであろう。

今週の予定

5/6 (MON)	
5/7 (TUE)	台湾4月CPI
5/8 (WED)	台湾4月貿易収支
5/9 (THU)	
5/10 (FRI)	台湾第1四半期GDP、米5月ミシガン大学消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。